

延岡RC

# 青い鳥賞に松田、赤阪さん

## 6/28 コノハナロード 整備、維持で尽力

延岡ロータリークラブ(延岡RC、岸上和男会長・73人)は16日、延岡市紺屋町のエンシテイホテル延岡で「青い鳥賞」の表彰式を行い、松田香代子さん(78)と祝子町、赤阪輝巳さん(69)に原町に表彰状と記念品を贈った。

青い鳥賞は、1964年のクラブ創立10周年を記念して制定。社会貢献、地域貢献活動に尽力して、例会で予定していたが、

いる延岡市内の個人に毎年贈っている。今年の表彰式は当初、4月14日の

コロナ禍で延期となっていた。受賞した2人は、ともにNPO法人コノハナロ



ード延岡市民応援隊(松田庄司理事長)のメンバー。表彰式で、青い鳥賞

委員会の盛武一則委員長はそれぞれを紹介し、「多くの方が華やかに美しく家族団らんができる裏で大きな役目を担ってこられた」と、家族連れら

にぎわうようになったコノハナロードの整備を続ける2人をねぎらった。

赤阪さんは16年2月、同隊の結成と同時に入会し、コノハナロード入りの駐車場や花壇の除草を担当。砂利が敷き詰められ、刈り払い機による作業ができない中、手作業で作業を続けている。

松田さんは2008年4月から、松田理事長の呼び掛けで河津桜による名所づくりに参加している。当時の維持管理作業

週3日、病院に通って闘病生活を送る一方、通院しない日は夏も冬も雨の日も作業。そのかいあって、散歩や花見に訪れる人の駐車場として多く利用されている。

は、松田理事長が同級生と立ち上げた「天下一ひむか桜の会」が担当。松田さんはその中心メンバーとして水道設備が整っていない中、ペットボトルを家から持参して水やりをしたり、寒い中、菜の花の間引きや移植作業

全長約1.2キロに及ぶ作業は、16年に同隊が結成されるまで、少人数で毎日のように続けた。同隊結成後は彼岸花プロジェクトリーダーとして活躍している。

表彰式には松田理事長も同席。コノハナロードの歴史や、2人の活躍をエピソードを交えて紹介し、「お二人のような人がいるおかげで今の景観がある」と感謝した。

受賞に際し、赤阪さんは「うれしい反面、私

たにも「た賞」と謙遜し、「もっともつときれいに」と、作業している。若い人も見に来てくれて、こちらも元気が出るしうれしい」。

松田さんは「びっくりしたが、ありがたい。仲間がたくさんいることが原動力になっている。延岡の人たちにとつての憩いの場となるいい場所ができて良かった」と話した。

2021.6.28